

平成 30 年度 未来をつくろう 市民と市長の地域懇談会

報告書

日時	平成 30 年 10 月 30 日（火） 午後 6 時 30 分～8 時 10 分		
場所	麓郷集落センター		
参加者数	34 人		
市側出席者	市長	北	猛俊
	副市長	石井	隆
	総務部長	稲葉	武則
	市民生活部長	山下	俊明
	保健福祉部長	若杉	勝博
	経済部長	後藤	正紀
	建設水道部長	吉田	育夫
	教育部長	亀淵	雅彦
	ぶどう果樹研究所長	川上	勝義
	企画振興課長	西野	成紀

【市長 開会のあいさつ】

9 月 20 日から全地域を回らせていただき、地域懇談会を開催しています。本日は麓郷地区のみなさんに、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

外は落ち葉の時期になりました。へそ祭りの頃の熱さが懐かしく感じるほど寒さが厳しくなってきました。天候を振り返ってみると、農業の関係では、高温や長雨低温もあり、大変苦戦を強いられる年となりました。出来高は、施設野菜はほぼ平年並みの販売額が確保されたと聞いていますが、露地野菜は、ほとんどが減収となり、水稻は 89%、他の作物も 6 割から 8 分作と聞いています。厳しい状況ですが、来年に向けた準備をしている大事な時期に、夜分にも関わらずお疲れのところお集まりいただきお礼を申し上げます。

本日のテーマは、富良野市が当面解決をしなければならない大きな課題として、JR の問題、新庁舎建替の問題について、今までの経過と市の考え方を説明させていただきます。JR の関係では、利用者だけではなく、農産物を運んだり、観光のルートにもなっていることから大事なものとなっています。庁舎の関係では、将来にわたって市のまちづくりの中心になるところです。どういう庁舎がいいのか、どんな機能を持たせるべきかについてご意見をいただければありがたいと思います。また、地域の課題についてもお聞きしたいと思います。

みなさんのご意見をいただきながら、実現に向けて取り組んでいくということが、これからの新しい公共のあり方だと思っていますので、忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。

1. 鉄路のあり方

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○JRを存続していくための、ある程度の支援とはどのくらいの金額か。</p> <p>○昨年の懇談会では、国鉄からJRに分割するときに、JR北海道は赤字ありきで国からの1千600億円の運用で赤字を埋めていくはずが、ゼロ金利政策で、運用益がなくなり、赤字を補てん出来なくなったと説明があった。JR北海道が運用益が出なくて赤字になった、運営できないから廃止する。ということだが、根本的な要因について、国や道、市町村から説明があるべきではないか。</p> <p>○JR貨物の関係は、JR北海道と日本貨物があるが、旅客の収支はあるが、貨物の収支について説明がない。</p> <p>○昨年の地域懇談会の説明とつながるような内容にしてもらいたい。</p>	<p>○ある程度の支援については、国や道から示されていません。現段階の推測では、国は400億円台の支援を決めていて、地方自治体にも同水準の負担を求めています。また、10月20日、JR北海道、鉄道局、市町村長会などの6者会議が行われ、その翌日の北海道新聞では、単独維持が困難な8線区について、JR北海道は100億円を超える赤字規模とコメントしています。仮に100億円が必要な額として、国と地方自治体の負担が同水準とした場合、国が50億円、地方自治体が50億円となると想定されます。さらに、地方自治体の50億円を、道と市町村で負担することになりますが、仮に道と市町村が2分の1の負担割合だとすると、市町村分は25億円となります。この市町村分を、どれだけの市町村の数で割るかですが、8線区に關与する市町村は約50あるので、25億円を50市町村で割ると1市町村あたり5千万円と推測できます。しかし、50市町村は道北と道東に集中しています。道南や道央は負担しないのか、179市町村で負担するべきではないかなど、負担をする市町村は、まだ定まっていません。こうしたことから、ある程度の支援とは、何千万円規模となると推測しています。</p> <p>○30年前に国鉄からJR北海道に移行する際、JR北海道は年間約490億円の赤字になるといわれていました。その赤字を埋めるための手立てとして、国はJR北海道に経営安定基金として6,822億円の基金を積み立て、当時の利息7.3%分で赤字額の490億円程度の運用益を出し、赤字額を埋めるという仕組みでした。しかし、この30年間の低金利のなかで、運用益が減少し、赤字額を埋められなくなったことが、そもそもの発端であり、原因になっていると昨年の懇談会で説明しました。このことについては、根室本線対策協議会でも、道から国に要請してきているところです。昨年、市長就任前の議長という立場で、国に対して、道内から選出されている30人の国会議員や国土交通大臣に、国の責任であることを要請してきています。今年は、市長に就任し</p>

てからも副大臣に会い、繰り返し要請をしてくれています。しかし、国も、この間1,200億円以上の支援をし続けていることから、鉄路を維持存続するためには、地域のみなさんにも一緒に考えてもらいたいと言っています。

○JR北海道とJR貨物は全く別の会社です。JR貨物の根室線の収入は年間約7億3千万円です。一番大きな問題は、片荷輸送で、帰りが空で帰ってくるというものです。収支は年間で約1億円の赤字と聞いています。

○市町村が負担した分は、国に責任があるので、国が市町村に補てんをするよう、国交省が総務省に要求するという動きも見られ、今後、財務省との交渉もあると思われます。そうしたことから、ある程度の支援という話になっていて、昨年からの説明にもつながっているということをご理解ください。

2. 新庁舎建設について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○新庁舎建設で市民生活に影響はないのか</p> <p>○現庁舎が出来た昭和44年当時の人口は3万人あったが、現在は2万人になっている。市役所の仕事や職員数は増えているのか。文化会館と類似の施設として演劇工場、ふれあいセンターがあるが、文化会館の機能は必要か。</p> <p>○事業費の58億円を30年で返すと1年あたり2億円程度、人口2万人だと、1人あたり年間1万円の負担になる。面積や事業費は、人口が減少しないことが前提になるのか。30年後の人口は何人を想定しているのか。</p> <p>○ハザードマップでは、現在位置は水害時に浸水することになる。今年、岡山県の災害で市役所が浸水し、市役所の機能が麻痺した。水</p>	<p>○仮に2億3千万円の借金返済だとすると、約6千万円は国から交付税措置がありますので、毎年1億7千万円の返済額になると試算しています。返済方法については、より良い条件を検討しているところです。</p> <p>○返済が終わる平成63年ころの人口を見据えて検討しています。国の研究所の試算では、人口は1万6千人くらいとされています。仕事量は、40年前と比べると、国や道からの権限移譲により多くなっている状況です。今後も権限移譲により、業務量や役割は増えていくことが想定されます。なお、職員数は、OA化の進展などで減少しています。</p> <p>○文化会館の貸館機能は複合させていただきたいと思っていますが、ふれあいセンターとの役割は、どのような形が良いのかを検討しているところです。建設の現在位置は、100年に一度の洪水時に0.5～1mの浸水が想定されていますが、駐車場のスペース確保も考慮</p>

に浸かることが分かっている場所で建替えるのか。別の場所に建てることや、既存の建物を利用するなどして防災拠点を別につくるのか。例えば、山部の支所を活用するなど。そうしたことは検討しているのか。

- 人材開発センターの利活用のほか、信金富良野支店にも空きスペースがあると聞いた。そういう場所の選択肢はないのか。

して、建設コストを抑えるために現在の場所としました。浸水を想定して、洪水時に庁舎機能を維持させるため、嵩上げも考えています。また、電気設備やボイラー設備等を高層階に設置したり、外部電源の確保による、市役所の業務が停止することのないような防災の拠点づくりをしていきたいと考えています。事業費や返済額については、公債比率をみながら健全な財政に努めていきたいと思えます。

- 人材開発センターの用地も検討しましたが、人の流れを考えて、現在位置を選定しました。信金は駐車スペースの確保が難しいと思われます。
- 新庁舎の防災機能については、各地域からも質問がでています。現在の位置で本当に機能しなくなった場合どうするのかということで、サーバー等は他の場所に設置することや、山部支所への防災機能の準備なども検討しているところです。防災については、いろんな意見をいただいていますので、いろいろな角度から検討しています。

3. 防災体制について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○今回の震災では、2日間の停電となり、麓郷は断水した。避難所は開設したが、毛布も食料もない。避難所として機能していない。こういうことは、新庁舎建設のことよりも優先して考えてほしい。</p>	<p>○麓郷地区では、小中学校の体育館を避難所にさせていただきましたが、災害対応で毛布などの不備があり、反省をしているところです。今後、学校とも協議をして、毛布を少し備蓄して、直ぐに使えるような災害体制を考えています。</p>

3. 地域課題など

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○現在住んでいる場所は、携帯電話もスマホもつながらず、インターネット環境も悪くて動</p>	<p>○平成 29 年度は、麓郷地域の公共施設で、小中学校、あおぞら保育所、麓郷市街地の一部に</p>

画が見られない。20年前よりも悪くなってきた。麓郷の光回線通信は一部地域だけとなっているが、他市町村のように地域情報化政策として、どこの地域でも光サービスが浸透し、医療や教育などの市民サービスを受けられるようにしてほしい。そのような考えはないのか。富良野市内に、携帯電話が繋がらない地域があるということを知ってもらい、改善してほしい。

- 冬の吹雪のとき、JAふらのの人参洗い場からオルゴール、共済農場を結ぶ道路は、吹き溜まりが発生するため観光客の車の事故や立ち往生が非常に多い。防雪柵の設置をするなど、吹き溜まり対策をしてほしい。
- 昨年の地域懇談会で、グラスフォレストから学校までの区間の歩道と道路の間に生えている雑草処理について要望したところ、市で雑草の刈り取りに加え、除草剤の散布までしてくれた。縁石周りの砂の清掃はお願いできないか。
- 麓郷街道のトンネルについて、進捗状況を教えてほしい。

ついて光回線の整備を実施しました。この整備により、市内で新たに約475世帯が光回線サービスの加入が可能となり、そのうち9月末現在で約1割が加入しています。サービス対象外の地域には、まだ約1,400世帯の方がいます。市内の全世帯に光回線を整備すると約10億4,400万円かかると試算しています。現状のように、加入件数が1割程度であれば、費用対効果も見込めないことが想定されます。ADSL回線は、2023年1月末時点で光回線の整備が行われている地域は終了しますが、整備されていない地域について、現在のところNTTからは何も示されていません。また、スマートフォンの4Gは、5Gという第5世代無線移動通信システムのサービスが2020年には開始するとの動きもあります。仮に5Gのサービスが提供されると、通信速度が100倍早くなり、通信可能容量も1,000倍になるといわれています。例えば、映画1本を10秒でダウンロードすることができるようになります。このため、4Gと5Gで通信料金に大きな違いがないのであれば、光回線の整備も必要ないのではないかとされている状況です。NTTとしては、そのような状況でも、加入者が一定程度いるということであれば、調査して整備を検討するとしています。

- 今の段階では、戸々に持っていくという整備にはなっていません。NTTにはADSLをどうするのかを話しているところです。
- 市道で砂をまいたところは道路清掃していますが、道道のため北海道と対策を協議させていただきます。
- 昨年、住民説明会をして地域のみなさんの理解をいただきました。その後、北海道で進めています。まだ線形がはっきりせず、途中にある市道も通れるように検討中です。線形が決まった段階で、再度説明会を行うよう道

と協議をしています。現在、道の財源不足もあり、実施設計には至っていません。また、線形とトンネルの基本的なことしか決まっています。着工はまだ先になりますので、それまでの間は現在の道路を通行していただきます。ただし、浮石などは24時間監視し、増水などの危険がある場合は、直ちに通行止めを行うような安全措置をしています。市としても1日も早い着工と完成を引き続き道に要望していきますのでご理解をお願いします。

【市長 閉会のあいさつ】

熱心に課題についての説明を聞いていただき、地域の課題についても提言をいただきました。それぞれの課題について、お答えさせていただきましたが、現状を把握しながら早期の実現ができるようにしていきたいと思っています。

JRの関係では、11月後半から31年と32年のJRの再建計画の協議が始まります。そのなかで負担のあり方、JR存続の価値や効果を反映させることができるように努力をしていきたいと思っています。庁舎の関係では、市民の満足度が高く、納得のできるような庁舎の建設に向けて努力をしていきたいと思っています。現在、検討委員会で話し合いを進めていますが、その中で、後世に残るような検討をお願いしたいと思っています。なお、市庁舎建設の関係で、償還が終わる年度の人口は、1万6千人程度という説明がありましたが、市としては1万6千人程度の人口は、決して好ましい状態ではないと考えています。しかし、現在も毎年300人ほどの人口が社会減少している状況です。その減少を300人から200人に下げるなど、減少しないようにしていくことで、少なくとも2万人前後の人口規模を維持していきたい、そのための施策も打っていかねばならないと思っています。子ども子育てや足りない雇用の充足、人口を増やすための企業誘致など、いろいろな課題に対する施策を講じながら人口減少を止めていき、地方創生につながる動きにしていきたいと思っています。

みなさんからご意見をいただいたように、この後も引き続き、足りないところはみなさんのご意見で補っていききたいと思っていますので、今後も市政に対するご理解とご支援をお願いします。

【参加者アンケートの主なご意見】

年齢区分	性別	ご意見
30-39歳	男性	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年懇談会に参加している。広報によると麓郷地区の参加者は例年他会場よりも多いと把握している。そのような会場の懇談会で、市の担当者が居眠りしていたのが残念。自分たちが日々働く庁舎建設の説明もあるのに。せっかくの年に1回の地域との懇談なので誠意をもって取り組んでほしい。 ・新庁舎は安全面を考えても良いと思うが、市民も誇りに思えるような素敵な庁舎にしてもらいたい。
50-59歳	男性	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時、行政の耐震化も必要だが停電時に必要な情報が伝わってこなかったので伝わるようにしてほしい（掲示板、放送等）。 ・市役所はもっといろんな情報をわかりやすく周知してほしい。 ・関連施設やいろいろな所に端末を置いてほしい。駅などでタッチパネルの情報（観光、市政、健康、ショップ、文化等）。 ・線路については多額の負担金を出して存続する意義がよくわからない。
50-59歳	女性	<ul style="list-style-type: none"> ・麓郷街道の紅葉、桜のすばらしさを広め観光につなげてほしい。 ・パーキングや遊歩道などを設置してほしい。
60-69歳	男性	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット環境を整備する施策として、地域情報化政策を実施してほしい。

		い。
60-69 歳	男性	・とても丁寧な説明に感謝しています。麓郷の一住民としてこの地を愛し続けたいと思っています。ありがとうございました。
60-69 歳	女性	・市民と行政の距離がとても近く、一年一年この懇談会に来るのが楽しみ。